



～あなたの「いない」が、誰かの「ほしい」に～

NEWS

xChange × 銀座CHAIRS 「ヴィックムニーズごみアートの奇跡」上映会開催

About “ごみアートの奇跡”

有名な現代アーティストであるヴィック・ムニーズが活動拠点ニューヨークのブロンクスから故郷ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ郊外にある世界最大のごみ処理場「ジャウジン・グラマーシヨ」へと旅をする。そこで彼は、“カタドール”といわれるリサイクル可能な素材を拾い集める人々のポートレイトを写真におさめていく。そしてごみ山で集めたガラクタで、カタドールたちの巨大ポートレイトのモザイク画を制作していく…。

一瞬でも彼らを別の世界に連れ出すことが出来れば、彼らの人生を変えることができるのではないかとムニーズは、制作した作品を世界的に有名なオークションで販売し、そのお金をカタドールに全額寄付して次々と人生を変えていくが…。アートが現実社会を変える、人を変えていく壮大な試みが、今明らかになる。30以上の賞を受賞！世界中が感動した現実を動かした真実のストーリー。



監督:ルー・ウォーカー
共同監督:ジョアン・ジャルティン、カレン・ハーレイ
プロデューサー: アンガス・エインズレイ、ハンク・レヴィン
共同プロデューサー:ピーター・マーティン
製作総指揮:フェルナンド・メイレーリス、ミエール・ド・ボトン・エインズレイ、アンドレア・バラタ・ヒベyro、ジャッキー・ド・ボトン
音楽: モービー
配給・宣伝: ユナイテッドピープル
98分/カラー/英語、ポルトガル語(英語字幕)/イギリス・ブラジル/2011年



xChange × CHAIRS

視点を換えれば、未来が変わる。

2016年4月24日、「服と幸せのシェア xChange」は銀座CHAIRSで第二回となる共同企画、「ヴィックムニーズごみアートの奇跡」上映会を開催しました。

“ヴィックムニーズごみアートの奇跡”は、エコランドを運営する(株)ウィンローダーが協賛している映画。世界最大のごみ処理場でリサイクル可能な素材を拾い集める“カタドール”と呼ばれる人々の姿をゴミを使ってモザイク画として表現し、その売り上げを彼らに還元した実話の物語です。アートの力が、カタドールの価値観、生活を大きく変えていく。その影響力の大きさに慎重になり、カタドールを外の世界へと連れ出すことに疑問を投げかけたメンバーもいましたが、ムニーズは“今の生活、自身のあり方に疑問を持つことはそんなに悪いことか?”と意見をはねのけます。その姿は、アートというものがこれまで世界に対し、あらゆる常識や既成概念に疑問を投げかけてきた様ととても似て見えます。

ムニーズは映画を通じて様々なメッセージを残していますが、その中でも最も強いメッセージが“視点が変われば、未来が変わる”という言葉です。これまでに何気なく捨てていたゴミも、視点を換えれば日本の、私たちにとっての資源になり得るかもしれません。エコランドもお客様の不要になったものを、それを欲しがっている誰かに送り届けることで廃棄物を有効活用し、人々の生活へと還元するお手伝いをしています。ですが、今回のイベントでは視野を広げ、世界屈指の再資源化技術を持ち、新しい技術が世界に評価される日本で、ユニークなアイデアで新しい廃棄物処理のあり方を実現するエコモーション株式会社取締役の中野亮太氏を招いてのトークショーが展開されました。

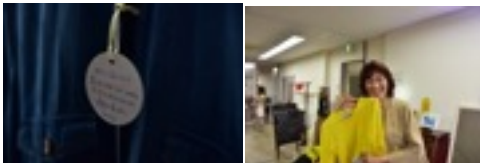
服としあわせのシェア

xChange

<About xChange>

xChangeはファッションアイテムに特化した誰でも参加・開催できるフリースタイルの物々交換会。オシャレは楽しみたいけど、環境を壊すようなファッションのありかたはオシャレじゃないし、トレンドを追いかけてははお金も追いつかない。そんな考えから人や地域のつながりを豊かにし、所有することから今あるものを上手に共有しながら使っていく、循環型社会へのシフトを目指して活動しています。

URL: <http://letsxchange.jp/>



未来のごみの捨て方をデザインする

廃棄物処理の会社でありながら、特定の処理場を持たないエコモーション。産廃業者は、ゴミを引き取ることでお金を得ています。そのため、どれだけそれが遠くの廃棄物であっても自分たちのところで処理したがるのです。しかし、遠くから廃棄物を運ぶのはコストもかかるし、多くのCO2を排出します。そのような廃棄のあり方に疑問を投げかけ、企業からでた廃棄物の最適な処理の仕方をコンサルティングしているのがエコモーションの事業です。日本中の処理場をネットワーク化し、企業ごとに出たゴミをどのように処理したらコストが下がり、また環境に優しく処理できるかをアドバイジングしています。またそれだけではなく、これまで廃棄物として処理していた物を資源として捉え、買い取ってくれるパートナーとのマッチングも行っています。例えば、とあるカフェで大量に廃棄されるコーヒーの実の殻が消臭効果があるということを知り、観光に力を入れる牧場に牛の寝床に敷くわら材のかわりとして買い取ってもらうことで、これまでお金を出して捨てていた廃棄物が、新しい資源として販売できるようになったのです。

「一般家庭で出るゴミも、将来は主婦の方々や、そのゴミを出す人々が売れるようにしたいんです。」そう語るのゲストの中野さん。一般家庭のゴミまで販売することができるになれば、人々の意識も変わり、これまでゴミとして扱っていた物を資源として大切に扱うようになるかもしれません。そうなれば、きっと人々の環境への意識も自然と高まっていくはず。アートの力が社会への問いの投げかけだとするならば、まさにエコモーションが実践するのは、ムーブが社会へと問いかけた大量のゴミの問題、そしてそれをリサイクルするカトドルが抱える貧困の問題を解決する未来のごみの捨て方のデザインなのではないでしょうか？



中野さんの活動に聞き入る参加者たち。



洋服には一点一点エピソードタグが。

繋がる広がる物々交換の輪。xChangeは身近にできる新しい資源循環の形

中野さんが語る、私たちの理想のごみの捨て方、それはまだまだ未来のこと。しかし、今すぐに私たちが実践できる資源循環の取り組みも存在します。服と幸せのシェア、xChangeもその活動の一つです。xChangeは、「サイズ少しが変ったな」「服の趣味が変ったな」といった様々な理由からクローゼットの中で眠ったままになってしまっている洋服を、思い出と一緒に交換するイベントです。なんといっても特徴は、洋服の思い出を綴ったエピソードタグをつけること。思い出がたくさん詰まった洋服を誰かが持って帰って大切にしてくれることは、新しい洋服を得ることよりも大きな喜びになるのです。中にはなかなか思い出がかけないという方もいますが、エピソードタグを書くということを通じて、これからはもっと物を大切にしようという意識が芽生えてくるのです。

年間10キロもの服を買い、そのうち9キロを捨てているという日本人。その持続不可能なファストファッションから抜け出し、今ある物を上手に使って豊かな生活を模索する場がxChangeです。今後もエコランドはxChangeの活動を支援していきますので、皆さんも是非ご参加下さい。

※次回のxChange powered byエコランドは6月下旬を予定しています。